



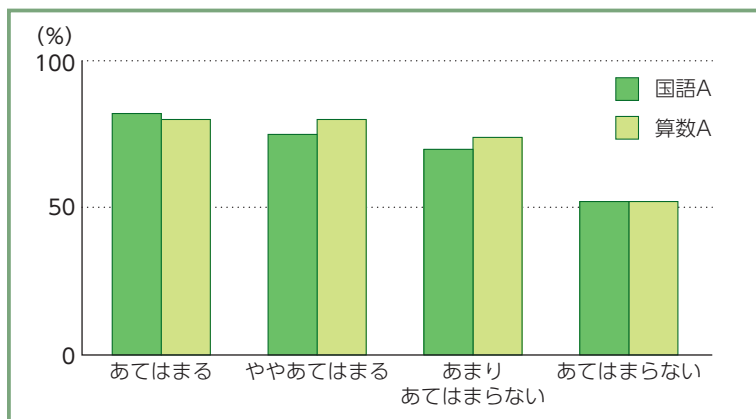
中学3年

家で予習復習をする生徒の割合が国県に比べてかなり低く、その分、毎日のTV・DVDの視聴時間が3時間以上という生徒が国県に比べて2割程度多い状況です。一方で、学校の休み時間や休日に、図書館に行って本を読む生徒の割合が国県に比べて2倍近く多く、良い習慣だと思われます。授業で学んだことを、他の学習や普段の生活の中で生かしていると考えられる生徒や、家の人と学校での出来事や将来のことについて話をする生徒ほど到達度が高くなっています。(2図参照)

3. 今後の対応

小中高連携事業の算数数学TT授業、および少人数学級指導によって、小学校の算数はABともに全国平均点を越えました。小中学校ともに、これまで同様、めあてと振り返りを確実にする授業、生徒が意見を交わし合い学び合う形式の授業に変えていく必要があります。中学で作成した学習の手引きの使い方や、各種のメディア使用方法について親との約束事を決める事など、家庭の協力もお願いしたいと思います。

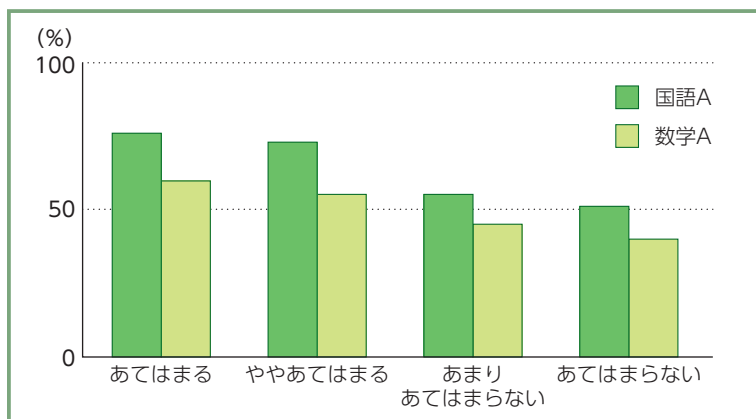
(1図) 生活実態アンケートと成就率とのクロス集計 (小学校)



質問：算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

あてはまると答えた児童の正答率は80～82%、ややあてはまると答えた児童の正答率は75～80%、あてはまらないと答えた生徒の正答率は52%です。

(2図) 生活実態アンケートと成就率とのクロス集計 (中学校)



質問：家の人と学校での出来事や将来のことについて話をしますか

あてはまると答えた生徒の正答率は60～76%、ややあてはまると答えた生徒の正答率は55～73%、あてはまらないと答えた生徒の正答率は40～51%です。